

消毒薬アレルギーに注意

新型コロナウイルス感染拡大防止のための緊急事態宣言は、京都では、5月21日に解除されましたが、多くの施設で、三密を避けてのオープンの試みが続いています。診療所では4月中旬からオーリングテストを使い、玄関口でのスクリーニングをして、院内感染を防いできました。無症状でも新型コロナウイルス感染が疑われる方にはその場でお引き取りを願ってきました。5月末までに5人おられました。抗体をすでに持っておられる方は23人でした。ほとんどの方が、いつ感染したのだろうと言うほど軽くまたは無症状で感染していたのです。一方、微熱が続く、体がだるくて腕も上がらない、頭痛や吐気、咳も続くなど診療においでになる方は、私たちも、新型コロナ感染を疑い外のガレージでスクリーニングを行います。オーリングテストにて調べていますが、新型コロナ感染の方はいませんでした。RSウイルス、ヒトメタニューモウイルス、アデノウイルス感染の方が例年より少な目におられて、圧倒的に多かったのは、何と消毒薬に過敏反応を起こし身体中のあちこちの異常をきたしている方たちなのでした。

塩素系消毒薬やイソプロパノールにアレルギー反応を起こしているのです。アレルギー体質の方には、エタノールには反応しないが、イソプロパノールには反応する方がとても多いのです。イソプロパノールは第二級アルコールで、エタノールに比べて安価で、手指消毒用として売られているのですが、毒性が強く、注意が必要です。診療所での経験ですが、エタノールが品不足で、わずかしか入手できなかった時に、掃除用として購入し、換気をして使いました。二週間もしないうちに、半数以上の職員に、自律神経の異常、血圧の急上昇、腹痛、頭痛、吐き気、気分不良、頻尿、などの症状がでてきたのです。エタノールではそのような反応はありませんでした。イソプロパノールでの掃除は中止せざるを得ませんでした。症状の強い方には、解毒剤（グルタチオン）を、対症療法薬と共に服用していただかなくてはなりません。

この時期外来にお越しになる方は、花粉や、PM2.5、黄砂のアレルギーからやっと解放されたのに、また、何か症状が強くなった、と言われる方が多く、調べていくと、農薬、殺虫剤のアレルギー、過敏症の方が多いのです。今年はコロナだからと、容赦はしてくれません。消毒剤の上に殺虫剤、除草剤に反応し、とてもしんどい状態になっています。このような方は免疫力の落ちた状態で、コロナに感染したら、とても軽い症状では終われない、と感染しないようにとても注意して生活しています。

新型コロナ対策に、三密対策と共にあらゆるところに消毒薬が、これでもか、という勢いで使われていますが、細菌や細胞を殺してしまうこれらの薬剤の、人体への影響にも注意を払う必要があるのではないかと思います。